

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：14101

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K19088

研究課題名(和文)緩和ケアシミュレーションの開発とその評価

研究課題名(英文)Development and evaluation of a palliative care simulation

研究代表者

黒澤 杏里(犬丸杏里)(INUMARU, Anri)

三重大学・医学系研究科・助教

研究者番号：60594413

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文): 緩和ケアシミュレーション教育に関する文献調査を実施し、「看護師のシミュレーション教育に関する日本の研究動向」「臨床看護師に対する緩和ケア教育の日本における研究の動向」「Role-play Education for Healthcare Professionals in Japan: An Investigation of the Trends and Effectiveness」を発表した。

緩和ケアシミュレーションシナリオの開発について、がん看護専門看護師に対してアンケート調査を行った。その結果「がん看護専門看護師が必要と考える2-4年目の看護師に対する終末期・緩和ケア教育」を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在、わが国ではがん対策推進基本計画における重点課題として、「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」が掲げられており、看護師は基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得することが目標に挙げられている。緩和ケアの基本的な考え方である疼痛マネジメントやトータルペインの視点を取り入れた緩和ケアシミュレーションを開発することには意義があると考えられる。基本的な緩和ケアを実施する臨床看護師に対して、緩和ケア教育の1つとしてシミュレーションを実施することは、緩和ケア実践者の総数を増やすことにつながる。そして、緩和ケアを実施する看護師が増えることは、緩和ケアを必要とする人に緩和ケアが提供されることにつながる。

研究成果の概要(英文): We conducted a literature review on palliative care simulation education and published "Research Trends in Japan on Simulation Education for Nurses," "Research Trends in Japan on Palliative Care Education for Clinical Nurses," and "Role-play Education for Healthcare Professionals in Japan: An Investigation of the Trends and Effectiveness".

A questionnaire survey was conducted among oncology nurse specialists regarding the development of palliative care simulation scenarios. The results of the survey, "End-of-life and Palliative Care Education for Nurses in Years 2-4 as Considered Necessary by Cancer Nurse Specialists," were presented.

研究分野：臨床看護

キーワード：緩和ケア シミュレーション 終末期 看護 教育

1. 研究開始当初の背景

看護師は、国内・国外共に最大数を占める医療専門家であり、緩和ケア提供するための主たる役割を担っている。緩和ケアとは「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に同定し、適切な評価と治療によって、苦痛の予防と緩和を行うことで、QOL(Quality of Life: 生活の質)を改善するアプローチ」と示されている。緩和ケアは、在宅、介護福祉施設、急性期病院など様々なところで必要とされており、経験年数の少ない看護師にもケア提供が求められている。2010年度から研修が努力義務化された新人看護職員研修のガイドラインにおいて、到達目標に苦痛の緩和・安楽確保の技術が挙げられている。

緩和ケアの中でも重要な要素である疼痛マネジメントについて、9割にも上る看護師が困難を感じており、患者から死に関する話題を出された場合の対応といったコミュニケーションに関する困難感もあると言われる。これらは、緩和ケア実践の中でも実際に目にしており、トータルペインという考え方が浸透しておらず、患者の痛みを多面的にみれていないことに要因があると考えられる。

痛みは複雑であり、緩和ケアを提供するためには、基盤に患者の痛みを多面的に理解することが必要であるとされている。しかし、日本における看護基礎教育でも教育内容は各施設に任されているため、全看護師がトータルペインの考えを理解しているとは言い難い状況である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「緩和ケアシミュレーションの開発とその評価」を確認することである。現在、わが国ではがん対策推進基本計画における重点課題として、「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」が掲げられており、看護師は基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得することが目標に挙げられている。したがって、緩和ケアの基本的な考え方である疼痛マネジメントやトータルペインの視点を取り入れた緩和ケアシミュレーションを開発することには意義があると考えられる。

米国では看護教育にシミュレーションが取り入れられ、教育基盤が作られている。しかし、国内ではシミュレーションの活用が必要と言われつつも実施されることは少なく、講義やグループワーク、ロールプレイが多い。終末期に焦点を当てた看護基礎教育におけるシミュレーション研究は近年少しずつ発表されている。本研究では厚生労働省の緩和ケア専門委員会が示す「基本的な緩和ケア」の担い手である看護師を対象に、終末期患者の主要なニーズに対応することを目指した緩和ケアシミュレーションを開発し、その効果を、知識テスト、ターミナルケア態度尺度等の相違、シミュレーションを行った感想などを指標に確認していく点も学術的独自性があると考えられる。

3. 研究の方法

緩和ケアシミュレーション教育に関する文献調査：国内外の先行文献を再調査し、緩和ケア教育に関する情報を収集する。また、緩和ケア教育に関する学会やセミナーに参加し、現在必要とされている緩和ケア教育について調査する(2020年度)。

緩和ケアシミュレーションシナリオの開発：シミュレーション教育に関するThe Nursing Education Simulation Frameworkを枠組みとしたシナリオ開発を行う。

シミュレーション教育や緩和ケアに精通した専門家の協力を仰ぎ、現場に適したシミュレーションシナリオを作成し、内容の検討を行う。疼痛マネジメントやトータルペインの視点を取り入れ、特に、目標が達成できたのか客観的に測ることができる内容とし、誰もが活用可能なシミュレーション内容を目指す(2020～2021年度)。緩和ケアシミュレーションのプレテスト実施：看護師に対して研究参加希望者を募り、で開発したシミュレーションのプレテストを実施する。プレテストの実施結果から、研究協力者間でシミュレーション内容の妥当性を検討し、修正を加える(2022年度)。

4．研究成果

文献調査の1部として、2022年2月第36回日本がん看護学会学術集会にて「看護師のシミュレーション教育に関する日本の研究動向」、2022年11月第46回死の臨床研究会年次大会にて「臨床看護師に対する緩和ケア教育の日本における研究の動向」、2023年3月第26回 East Asian Forum of Nursing Scholars にて、「**Role-play Education for Healthcare Professionals in Japan: An Investigation of the Trends and Effectiveness**」を発表した。

2022年12月第42回日本看護科学学会学術集会にて「がん看護専門看護師が必要と考える2-4年目の看護師に対する終末期・緩和ケア教育」を発表した。アンケート調査の結果より、疼痛マネジメントやトータルペインの視点を取り入れ、シナリオを開発した。開発途中では、緩和ケアに精通する研究者、緩和ケア担当医、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、シミュレーション教育に精通する専門家からの指導も受けた。テスト、テストが終了しシナリオを修正した。現在、データを収集中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 犬丸杏里、片山朝可
2. 発表標題 看護師のシミュレーション教育に関する日本の研究動向
3. 学会等名 第36回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹ノ内郁美、犬丸杏里
2. 発表標題 臨床看護師に対する緩和ケア教育の日本における研究の動向
3. 学会等名 第46回死の臨床研究会年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 INUMARU Anri, SONE Kaori
2. 発表標題 Role-play Education for Healthcare Professionals in Japan: An Investigation of the Trends and Effectiveness
3. 学会等名 第26回 East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------